

南ア月報

(2011年6月)

在南アフリカ日本国大使館

1. 内政関連

●情報保護法論議再燃

先月与党ANCが、情報分類化と違反した場合の厳しい罰則を含む新情報保護法を導入すべく、多数派であることを利用して議会で審議を急がせ、法案を可決させようとしたことに対し、1日、労働組合(COSATU)は、もし法案が可決されれば憲法裁判所に訴え出るとの立場を表明した。法案に関してはCOSATUや市民組織から強い圧力がかけられており、当声明及び抗議を受けて、ANCは新法案を再度起草し審議を9月後半まで持ち越すと発表した。

●「国民の母」アルバティナ・シスル死去

2日夜、ANCの重鎮ウォルター・シスル氏(故人、ネルソン・マンデラの盟友で元ANC事務局長)の妻で、マックス・シスル下院議長及びリンディウエ・シスル国防・退役軍人大臣の母親であるアルバティナ・シスル(Albertina Sisulu)女史が、ヨハネスブルグの自宅で逝去した。享年92歳であった。全国各地でメモリアルサービスが開かれ、葬儀はソウエトのオルランドスタジアムで11日に執り行われた。

●マニユエル国家計画委員会委員長、国造りに向けた調査報告書を発表

9日、マニユエル南ア大統領府大臣(国家計画委員会(NPC)委員長)は、国造りの長期的な課題に取り組むNPCとして行った調査報告書、即ち南アの経済情勢や社会構造、喫緊の課題等を示す調査報告書(diagnostic overview)を発表した。同報告書によると南アの最も差し迫った課題は教育と失業であり、その他公共及び行政サービスの改善、汚職の削減、インフラ整備などについても述べられている。同報告書で指摘された9つの課題については、一般公開フォーラム等で議論され、2011年11月に国家開発計画(Vision for 2030)に反映される予定となっている。

●武器供与で法務大臣尋問

10日、ラデベ法務大臣は議会でリビアへの狙撃銃売却についての尋問を受けた。南アは抑圧政権に対する武器売買を認めていないが、報告書には南アフリカで製造された銃がカダフィ派の手に渡っていると書かれている。昨年度は6900万ランド(約8億2000万円)にも上る南アからの武器売却があったとされているが、政府はその詳細について明らかにしていない。

●ANC青年同盟総裁選、マレマ氏再選

16日~19日にかけて、ANC青年同盟の大会が開かれ、同時に総裁選も行われた。総裁選対立候補にはレボガング・マイレANC青年同盟ハウテン州議長の名前が挙げられていたが、マイレ候補を推すという州支部が現れなかったため、マレマ氏の再選が決まった。大会では青年同盟の政策、特に鉱山国有化及び土地収用などの政策が話し合われた。また、青年同盟こそが労働者階級を代表しているとし、COSATUと南ア共産党(SA

C P) に対する批判的発言も行われた。

●民主化後の重鎮カダール・アズマル氏死去

22日、マンデラ政権下で水資源大臣を務めたカダール・アズマル (Kader Asmal) 氏が心臓発作で急逝した。享年76歳であった。マンデラ大統領からの信望も厚く、新生南ア憲法の起草に大きく貢献した。マンデラ政権下で水資源大臣、ムベキ政権下で教育大臣を務めた。人権や民主主義の原則を曲げず相手が ANC 指導者であっても容赦なく批判を行う人物であった。ズマ大統領をはじめ与党関係者からも一様に弔意が表明され、「逸材を失った」とのラインで連日大きく報じられた。

●第5回COSATU中央委員会開催

COSATUの第5回中央委員会が、27日から4日間の日程で開催された。3時間にわたるスピーチの中でバビ事務局長は、ANC上層部の汚職に焦点をあてながらズマ大統領の弱いリーダーシップに対し批判的意見を述べ、3者同盟のあり方についても改善の必要性を強調する演説を行った。また、今後の課題や取り組みについても話し合われた。

2. 外政関連

●ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣訪日

1-3日、ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣が訪日し、第11回日・南アパートナーシップ・フォーラムが開催された。同フォーラムでは、経済連携、貿易投資、開発協力、気候変動の4つの事務レベル協議が行われ、同フォーラムの政治セッションとして日・南ア外相会談及び松本大臣主催夕食会が開催された。昨2010年の岡田外務大臣(当時)来訪時に両国関係は戦略的協力パートナーシップに格上げされたが、今次訪日では、戦略的パートナーシップをさらに強化しえいくことで一致した。

このほか、菅総理への表敬、高円宮妃殿下御接見、松本環境大臣による表敬、日本経団連幹部との懇談、議員交流行事、NHKインタビュー、日本記者クラブでの会見、岡田民主党幹事長との面談等が行われた。

さらに、マシャバネ大臣は、2-3日に東京で開催されたMDGsフォローアップ閣僚級会合に出席した。

●オバマ米国大統領夫人南ア訪問

20日-22日、オバマ米国大統領夫人は南アを訪問し、マンデラ元大統領夫人やズマ大統領夫人等の女性指導者と面談したほか、マンデラ元大統領やツツ大主教を表敬した。

米国国務省は、オバマ夫人の南ア訪問は政治的側面と個人的側面の両方を含むものであると述べた。

●南ア・コンゴ(民)二国間委員会

20日、ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣を始めとする南ア閣僚は、コンゴ民主共和国を訪問し、同国との二国間委員会を開催した。ズマ大統領は21日に同国入りし、地域安全保障、貿易、紛争後の再建イニシアティブ等につき話し合った。

●リビアに関するAUアドホック委員会開催

26日、南アのプレトリアにおいて、リビアに関するAUアドホック委員会が開催され、ズマ大統領のほか、アブデル・アジズ・モーリタニア大統領、ムセベニ・ウガンダ大統領、

トゥーレ・マリ大統領が出席した。同委員会は、カダフィ指導者がリビア内戦の交渉プロセスに参加しないことを受け入れたことを歓迎するとともに、閣僚級ミッションをいくつかの国に派遣し、本件紛争の迅速な解決のための調和のとれた対応に向けた調整を行うことを決定した。

●赤道ギニア A U 閣僚執行理事会および総会

26-28日、赤道ギニアにて A U 閣僚執行理事会が開催され、ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣が出席した。

30日から翌月1日にかけて開催された A U 総会には、ズマ大統領も出席した。

3. 経済

<指標>

●南ア統計局によると5月の消費者物価指数は前年同月比4.6%となり、4月の同4.2%から上昇した。食品、石油、電気の費用上昇が主な要因となった。労働組合による物価上昇要求が価格上昇圧力の要因の一つとなっている。5月の対前月比物価上昇は0.5%と4月の0.3%より高かった。

●石油輸入の上昇、貴金属と自動車輸出の落ち込みにより、4月の南アの貿易赤字は24億ランドとなった。南ア歳入庁によると3月の9億7,100万ランドの貿易黒字に続く赤字となった。

●南ア準備銀行の四半期速報によると、経常収支赤字は、前四半期(1%)から第1四半期には対 GDP 比3.1%に拡大した。国際的な需要が低いため、商品輸出は横ばい状態である。一方で、国内需要の上昇は輸入額の上昇を招いている。外国人による南アでの運用資産の大規模な売却にもかかわらず、878億ランドの貿易収支不足は、資本流入によって容易に調達された。

●4月に見られた製造業部門の生産の急激な落ち込みは、第1四半期に見られた急速な成長の維持が難しいことを示している。南ア統計局によると、工場生産は3月に1.6%の上昇が見られたあと、4月には3.7%落ち込んだ。これは、自動車と自動車部品の生産の減少、電気製品の生産減少が、主な原因である。

●南ア自動車製造業者協会(Naamsa)によると、国内新車販売の伸びは、4月の前年同月比8%から5月には同6.1%へ減速した。5月の新車輸出は前年同月比9%減となった。Naamsa 会長は、イースター連休などの祝祭日が続いたため、輸出が減速したと述べた。

●南ア統計局によると、小売販売の4月の成長は前年同月比で過去4年間で最高の9.8%増となった。4月の小売り販売は、3月の5.3%及び4月の予測値5%を大幅に上回った。これは、4月に祝祭日が多かったことに影響されており、年間を通じて維持することは難しい見込み。

<ニュース>

●ギガバ公共事業大臣は6月の国会で、南アの公社は長期間にわたる過少投資により1

兆5、000億ランドのインフラ関連の投資不足を抱えていると述べた。公共事業省が管轄する8つの公社は、今年、Eskomの760億ランド、Transnetの260億ランド、Broadband Infracoreの5億ランドを含む、1,050億ランドの支出を計画している。

●政治的リスクは、低水準にとどまってはいるが、外国投資家及び南アの民間投資家に影響を及ぼし始めている。ムーディーズの上級副頭取は、6月の会議で人気取り政策が実施されることに対する懸念が高まっていると指摘した。11月時点での財務省による財政赤字予測では、3月までの財政年度で4.6%、来年度3.9%、再来年度3.2%と縮小が期待されていた。2月に財務省は、同予測を今年度5.3%、来年度4.8%、再来年度3.8%に上方修正した。

●6月、アフリカの首脳は、ケープタウンからカイロまでの26カ国にわたる自由貿易地域に関する対話を開始することに合意した。自由貿易ブロックが実現すると、関税削減により南アはかなりの利益を得る見込み。東南部アフリカ市場共同体（COMESA）や東アフリカ共同体（EAC）の関税は、南部アフリカ開発共同体（SADC）平均の2倍である。3地域を統合すると人口5億9,000万人、年間GDPは8,600億ドルの規模となる。

南ア自動車製造業者協会（Naamsa）によると、自由経済地域が実現すると、南ア産自動車のアフリカ諸国への輸出は今後10年間で容易に3倍になりうる。南アの自動車及び関連産業の大幅な成長につながると期待される。Naamsa会長は、地元自動車製造者は、自由貿易の提案に巨大な潜在性を見いだしていると述べた。

●6月、オクトーバー貿易産業次官は、今後3～5年間でトヨタ南アフリカはミニバスタクシーの南ア国内生産を始める見通しであると発表した。オクトーバー次官によると、貿易産業省は、南ア国内市場向け及びアフリカ諸国への輸出のため、タクシー製造の南アへの移動についてトヨタに働きかけてきたと述べた。トヨタのミニバスは、現在日本から輸入している。

●競争裁定委員会は、6月、地元調達条件を付けずにウォールマートのマスマート買収を許可した。裁定委員会は、期限付きで地元製の製品の調達割合を指定することは意図される雇用保障にはならず、それどころか、深刻な混乱と不正操作の機会を生じさせる、と判断した。

4. 広報・文化

●リン・セフォー氏叙勲

17日、日本政府は平成23年春の叙勲における勲章受章者を閣議決定し、南アフリカからは、南アフリカ剣道連盟会長のリン・セフォー氏に旭日双光章が授与されることとなった。

セフォー氏は1996年以来同連盟の会長を務めており、本授章は当地での剣道を通じての長年に渡る日本文化の普及・発展への貢献を評価したものである。同氏は南アフリカ共和国のみならず、周辺諸国への剣道の国際的な普及にも努めてきている。

同連盟は、現在国内に7道場、約140名の会員を有している。

なお、セフォー氏は、南アフリカ人としては7人目の叙勲受章者となる（相互儀礼叙勲を除く）。

後日、プレトリアでセフォー氏への叙勲セレモニーが行われる予定である。

●第25期JETプログラム参加者Q&A

25日、本年7月に渡日する第25期JETプログラム参加者に対するQ&Aセッションが当館多目的ホールで実施された。当館からは出発に向けた手続きのほか、日本での生活における注意事項等の説明が行われ、JETプログラム参加者からは日本語の学習方法や職場におけるコミュニケーションの方法など、日本社会にとけ込もうとする意欲が感じられる質問が数多く行われた。一行は7月22日の歓送レセプションを経て、同月23日に日本に向けて出発する。

5. 警備・治安

●“ジャミング”ってご存じ？

「ジャミング」という言葉が最近新聞を賑わしている。JAMは元々場所や物を何かでふさぐ・詰ませるの意味だが、通信や交通等を妨害するという意味もある。新聞では、車上荒らしの手口名として紹介している。

この手口は、乗用車をリモコンでロックするタイミングで別の信号（同じ周波数）を送信する事により、このため施錠をされず、施錠したと思い込んだドライバーが車両から離れた隙に犯人が車両に乗り込み、現金、パソコンなどの貴重品を奪うというものである。窓ガラスの破損等を伴うこともないため、被害者が出先から帰宅した時になって初めて被害に気付くという例も散見される。

今年に入り、この犯罪による邦人被害が数件報告されている。被害品も旅券、多額現金、パソコン等深刻である。

被害に遭わない為には例え面倒でも、リモコンにおけるロック後、必ず実際に手でロックされているかの確認をする習慣が必要である。また、車両内に自宅のカギを置いておくことも危険である。ナビゲーションシステムを窃取した犯人が、自宅登録から住所を割り出し、盗んだカギで侵入強盗・窃盗の犯行に及ぶからである。

(了)